

いまやわれわれは、ファシズムを「ファッショ」と呼ぶように、
ネオリベリズムを「ネオリベ」と
侮蔑をこめて呼び捨てにするべきだろう。

ネオリベ現代生活批判序説

白石嘉治・大野英士 編
Ed. By SHIRAISHI Yoshiharu & OHNO Hideshi

絶賛発売中

インタビュー

入江公康
IRIE Kimiyasu

樫村愛子
KASHIMURA Aiko

矢部史郎
YABU Shiro

岡山 茂
OKAYAMA Shigeru



●10/12 東京日仏学院で開かれた本書を巡る討論会には、学生を中心に約50人が参加した。パネリストは本書の編者 白石嘉治(上智大学)、矢部史郎 (ACA ; Anti Capitalism Action)、新井陽子(埼玉大学)、谷口清彦(上智大学)、松本潤一郎(立教大学)の5人。大学が直面するネオリベ的状况をめぐるパネリストの報告に対して、会場からはさまざまな意見が寄せられ、熱気を帯びた討論会となった。(11月上旬発行のPR誌『新評論』に、編者 白石氏によるこの討論会をめぐる特別寄稿エッセイが掲載されます。)

●体裁、定価等については小社サイトのトップページをご覧ください。

【本書の構成】

- 序；〈現代〉何が起きているのか？
 - 本論；〈生活〉どのような日常を生活しているのか？
- [インタビュー]

- 入江公康(専門学校講師, 労働運動史) 労働/消費
 - 樫村愛子(愛知大学助教授, 現代社会分析) 心理/主体
 - 矢部史郎(ACA ; Anti Capitalism Action, 社会運動) 運動/政治
 - 岡山 茂(早稲田大学教授, フランス文学) 大学/文化
- 結；〈批判〉取り戻すべきものは何か？

■ 本書のキーワード ■

非常勤講師解雇問題 生の統治 「反戦落書き」事件 新自由主義 ネオリベリズム アレゼール CALL システム 埼玉大学の非常勤講師問題 アタック 世界社会フォーラム 市場独裁主義 マクドナルド化する社会 プロ野球選手会のストライキ 古田敦也 フレキシビリティ アントレプレナーシップ 労働運動 新しい社会運動 アウトノミア運動 JR 福知山線の事故 イラク反戦 自己責任 自己啓発セミナー 小さな政府 ニューエイジ マック的主体 規律社会から管理社会へ スペクタクル社会 サウンドデモ だめ連 引きこもり 国立大学法人化 公共性 公共空間 フリーター ニート 条件なき大学 国連人権規約 高等教育の漸進的無償化 市場個人主義 ベーシックインカム スト破りマインド マネタリズム チリの軍事政権 サパティスタ 民営化 モラルハザード アナーキズム ネグリ/ハート 帝国 シアトル以後 マルチチュード オウム事件 ジジエク 競争 ジョブカフェ 抵抗と連帯 ブランドなんかいない 生の無条件の肯定…

▲ひとつでも気になる方は、ぜひ本書をご一読下さい。

刊行にあたって

白石嘉治

郵政は「民営化」されてしまうのだろうか？ いずれにせよ、今回の選挙のキーワードは「小さな政府」である。市場の万能を唱えるネオリベリズム(新自由主義)の教義が、国政選挙の争点として先鋭なかたちで浮上しているのである。

本書の出発点となったのは、埼玉大学で非常勤講師が大量に解雇された事件である。だが、そこで問われているのは、ネオリベリズム固有の非常勤=パート労働をめぐる深刻な実態だけではない。大学そのものを、公共空間として捉えることのできないわれわれのネオリベ化した感性が問われているのである。

端的にいうと、大学は無償でなければならない。普通(=ユニヴァーサル)選挙と同様に、大学(=ユニヴァーシティ)で教育を受ける権利は、経済的な制約があってはならないものである。実際、ヨーロッパ諸国の大学の授業料は原則無償である。しかも、日本政府は、現在国連から勧告すら受けている。すなわち、2006年6月末日までに、「高等教育の漸進的無償化」が定められた国際人権規約13条2項に調印すべきである、と。

いわゆる「2006年6月問題」であるが、これがなぜ今回の選挙の争点とならないのだろうか？ 日本政府がWTO(国際貿易機関)とともに喧伝するのは、医療・教育・鉄道・郵便の「民営化」である。病を癒し、みずから学び、移動し、通信する——生の普遍的な条件としての公共性が毀損されているのである。われわれはなぜそのことを「時代の流れ」として容認するような視野の狭さに陥っているのだろうか？ 何を恐れ、何に駆り立てられているのだろうか？ 『ネオリベ現代生活批判序説』とは、こうした問いを労働・心理・運動・大学の領野に通じた諸氏に投げかけつつ、われわれ自身がネオリベリズムの地平を踏み越えて思考し行動するための展望の試みにほかならない。(05.8.25 記)

本書カバー図版；
アゲマツ・ユウジ

[アーティスト、ゴミ採集家、ニューヨーク在住]
『Every Day Work』